

小学校におけるキャリア教育の実践

—平成16年度, 17年度, 18年度キャリア教育を推進するための
指導者の養成を目的とした研修の資料の分析—

児玉真樹子・深田博己

Activities of career guidance in primary schools:

An analysis of reports collected at the career guidance seminars in 2004, 2005, and 2006

Makiko Kodama and Hiromi Fukada

本研究の目的は、平成16年度から平成18年度にかけて広島大学において開催された、キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修の資料（小、中、高等学校の教諭などが作成したもの）から、小学校のキャリア教育活動の傾向を明らかにし、児童の職業的（進路）発達にかかわる諸能力を促進するための効果的な活動を見いだすことであった。まず小学校におけるキャリア教育の全体的な傾向を明らかにするために、各学校で取り組まれている活動内容を洗い出した。その結果、職業人から話を聞く機会の提供が最も多く行われており、次いで職場体験（農業体験を含む）、職業等に関する調査が多かった。また、キャリア教育による効果についての報告や今後の課題についてまとめた結果、小学校でのキャリア教育による効果はまだ十分でないことが示唆された。次に、特徴的で効果的だと思われる活動事例について報告した。これらの活動事例を参考にすることで、小学校でのより効果的なキャリア教育の実現が期待される。

キーワード：キャリア教育、小学校、職業的（進路）発達にかかわる諸能力

1. はじめに

昨今の厳しい経済情勢の中、就職、就業をめぐる環境が大きく変化した。中学校・高等学校・大学への求人が減少しており、例えば高等学校の学卒者への求人数は1992年には160万人を超えていたが、2006年では40万人に満たない（厚生労働省、2007）。そのような状況下で、求職希望と求人希望とのミスマッチも生じている（厚生労働省、2006）。また、就職する本人である子ども側の抱える問題として、精神的・社会的自立の遅れ（渡辺、2008）や若者の職業観・勤労観の未成熟さ（国立教育政策研究所生徒指導研究センター、2002）などが指摘されている。

そのため、学校現場でのキャリア教育の重要性が叫ばれており、キャリア教育に関する研修が行われている。その一環として、平成16年度から平成18年度にかけて、広島大学において、キャリ

ア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修が開催された。開催期間は、平成16年度は6月7日～11日、平成17年度は6月6日～10日、平成18年度は6月5日～9日であった。受講者は西日本の各府県、指定都市、中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者、もしくは、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭および教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等として活動を行う予定である者であった。受講者は当研修受講前に、各学校（各県）の進路指導に関するレポートを課せられていた。これらのレポートは当研修での演習資料として作成されたものであるが、実際に行われたキャリア教育の内容はもちろんのこと、現場が直面している問題等が盛り込まれており、キャリア教育の資料として非常に貴重である。そこで以下ではこれらのレポートの内容を整理した上で、特徴的なキャリア教育の例を紹介する。本報告によって、学校現場でのキャリア教育の概略が理解できるのと同時に、適切なキャリア教育を行うための指針が得られるだろう。なお以下では、小学校のレポートについてのみ報告する。

2. キャリア教育とは

2.1 キャリア教育の定義

文部科学省（2004）では、キャリア教育を「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それだけにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえ、端的には「児童生徒一人一人の勤労観、職業感を育てる教育」と定義している。

2.2 小学校におけるキャリア教育で育成すべき生徒の能力

また、国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2002）は、キャリアが子どもたちの発達段階やその発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、学校段階別（小学校、中学校、高等学校）に職業的（進路）発達段階とその時期の課題を挙げている。そのうち小学校段階は“進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期”であり、発達課題は“自己及び他者への積極的関心の形成・発展”，“身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上”，“夢や希望、憧れる自己イメージの獲得”，“勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成”の4点を挙げている。同時に、全発達段階に共通の、職業的（進路）発達にかかわる諸能力として、人間関係形成能力（自他の理解能力、コミュニケーション能力が含まれる）、情報活用能力（情報収集・探索能力、職業理解能力）、将来設計能力（役割把握・認識能力、計画実行能力）、意思決定能力（選択能力、課題解決能力）の大きく4つの能力を挙げている。以上を踏まえ、職業的（進路）発達段階別に、職業的（進路）発達にかかわる諸能力の具体的な内容が、“職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）”にまとめられている。そのうち小学校にかかわる部分はTable 1のとおりとなる。

3. レポート内容の分析

3.1 キャリア教育の具体的な内容

レポート（35校分）には、生徒を対象に実行しているキャリア教育の具体的な内容がないものも

Table 1 職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)－小学校段階－

		小学校			
		低学年	中学年	高学年	
職業的(進路)発達にかかわる諸能力		職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度			
領域	領域説明	能力説明			
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、さまざまな人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組み	【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	・自分の好きなことや嫌なことをはっきり言う ・友達と仲良く遊び、助け合う ・お世話になった人などに感謝し親切にする	・自分のよいところを見つける ・友達のよいところを認め、励まし合う ・自分の生活を支えている人に感謝する	・自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを發揮する ・話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	・あいさつや返事をする ・「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う ・自分の考えをみんなの前で話す	・自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する ・友達の気持ちや考えを理解しようとする ・友達と協力して、学習や活動に取り組む	・思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする ・異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探求するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	・身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ	・いろいろな職業や生き方があることが分かる ・分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする	・身近な産業・職業の様子やその変化が分かる ・自分に必要な情報を探す ・気付いたこと、分かったことや個人・グループでまとめたことを発表する
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力	・係や当番の活動に取り組む、それらの大切さが分かる	・係や当番活動に積極的にかかわる ・働くことの楽しさが分かる	・施設・職業見学等を通して、働くことの大切さや苦勞が分かる ・学んだり体験したりしたこと、生活や職業との関連を考える
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら前向きに自己の将来を設計する	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	・家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる	・互いの役割や役割分担の必要性が分かる ・日常生活や学習と将来の生き方との関係に気づく	・社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる ・仕事における役割の関連性や変化に気付く
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	・作業の準備や片づけをする ・決められた時間やきまりを守ろうとする	・将来の夢や希望を持つ ・計画作りの必要性に気づき、作業の手順が分かる ・学習等の計画を立てる	・将来のことを考える大切さが分かる ・憧れとする職業を持ち、今、しなければならぬことを考える
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	・自分の好きなもの、大切なものを持つ ・学校でしてよいことと悪いことがあることが分かる	・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む ・してはいけないことが分かり、自制する	・係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ ・教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す
		【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適應するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	・自分のことは自分で行おうとする	・自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする ・自分の力で課題を解決しようと努力する	・生活や学習上の課題を見つけ、自分の力で解決しようとする ・将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする

注1) 国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2002)の「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」のうち、小学校の部分を抜粋

あった。よって、具体的な内容が報告されているレポート（28校分）で報告されていた主なキャリア教育関連活動について、実施している学校数を算出した。さらに、学年による違いを明らかにするため、低、中、高学年全ての活動について報告している資料（6校分）のみを抜粋し、各活動の実施状況も学年別にまとめて算出した。その結果、Table 2 のとおりとなった。ただし、レポートには、キャリア教育活動の全体像が書かれているものもあれば、実行しているキャリア教育のうち特筆すべき活動や特定の学年に焦点を絞って書かれているものもあるため、この数値は学校現場の実際をそのまま反映したものではないことをあらかじめ断わっておく。

集計の結果、全体としては、職業人から話をきく機会（15校）の提供が最も多く行われており、次いで職場体験・農業体験（13校）、職業等に関する調査（12校）が多かった。なお、職場体験・農業体験に含まれている低、中学年のケースはいずれも農業体験（野菜作り）であり、高学年では米作りと実際の職場での職業体験が主であった。

学年ごとにみると、低・中学年では、職業等に関する調査やボランティア活動・高齢者との交流が比較的多く、高学年で職場体験や、児童による出店といった職業の疑似体験が行われていた。このデータより、職業調査や交流といった「導入」の活動を行い、興味をもたせた上で実際の職場体験を行っていることが読み取れる。

これらの多くが総合的な学習の時間（中、高学年）や生活科（低学年）での取組であったが、他教科（11校）、道徳（9校）、特別活動（9校）での取組について報告していたレポートもみられた。

3.2 キャリア教育実施による児童への効果と今後の課題

効果について報告していたレポートはごく僅か（7校）であった。各レポートで報告されている効果を、筆者が国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2002）の提唱している4種類の職業的（進路）発達にかかわる諸能力（人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力）に分類した。その結果、キャリア教育実施による効果として人間関係形成能力向上を報告していたのは2校あった。御影小学校からは、異年齢集団の活動等を通して、相手の立場に立って物事を考える態度や相手を思いやる態度がみられるようになった、調査結果の報告の機会を通して、他の人たちに分かりやすく伝えるため、工夫して表現活動を行うようになったという報告があがっていた

Table 2 キャリア教育活動の具体的な内容

活動	実施学校数 (割合) ^{注1)}	学年別にみた、実施学校数 ^{注2)}		
		低学年	中学年	高学年
職業人から話をきく機会 (ゲストティーチャーによる講演、達人へのインタビュー)	15 (54%)	1	1	2
職場体験・農業体験	13 (46%)	1	1	3
職業や郷土に関する調査	12 (43%)	2	4	2
ボランティア体験、高齢者との交流	9 (32%)	2	4	2
職場および職業関連施設(私のしごと館等)の見学	6 (21%)	2	2	3
職業の模擬体験(児童による出店、トレーディングゲーム等)	5 (18%)	0	0	1
自分の長所、興味、職業観の確認	3 (11%)	0	0	0

注1) 上表の割合は、具体的なキャリア活動を報告した学校数(28)を分母とした

注2) 低・中・高学年全ての報告がある学校のみを対象に算出した

(加藤, 2005)。なお御影小学校でのキャリア教育の具体的な取り組み内容の詳細は後で紹介する。また、仁摩小学校が「地域の方とのふれあいや体験的な活動で、表現力・コミュニケーション能力を高められた」と報告しており、当校では地域の職業人に話を聞いて調査する活動等を展開していた(渡辺, 2006)。

情報活用能力に関しては4校が報告しており、そのうち、働くことの喜び・大切さの実感を3校が挙げていた。御影小学校は飼育・栽培活動を通して(加藤, 2005)、二部小学校は職業体験を通して(田川, 2006)、このような効果が得られたと報告していた。また、船木小学校では各教科、道徳、総合的な学習の時間での諸活動と清掃や係活動等の日常活動を通してこのような効果が得られたと報告していた(菅, 2005)。また、「学校」という職場を調査する活動(「学校の先生 その仕事にズームイン」)を展開した佐賀大学文化教育学部附属小学校は、職場調査した仕事社会の仕組みの理解を効果として挙げていた(平山, 2006)。以上より総じて職業体験や調査活動、さらには清掃、係活動といった日常活動を通して、情報活用能力が形成されていると言えよう。

将来設計能力に関しては3校が報告していた。「高学年では、より具体的に自分の将来の仕事に関心を持ち、そのために今何をしなければならないかを考えるようになってきた」と報告した船木小学校では、具体的な活動としてキャリアアドバイザーによる講演、田植え等の職業体験、トレーニングゲームを実施しており(菅, 2005)、主にそのような活動を通じて将来設計能力が向上したと推測される。「キャリア科」という新教科の展開を試みている庄原小学校からは、この教科を通して「将来の目標をもてるようになった」という報告が上がっていた(森崎, 2006)。また、前述のとおり、「学校の先生 その仕事にズームイン」を展開した佐賀大学文化教育学部附属小学校は、「学校生活の中での自分の役割を見直すきっかけになった」と報告していた(平山, 2006)。以上より、将来設計能力は、職業に直接関連する情報を入手したり、実際に職業体験をするような活動を通して主に形成されるのではないかと推測される。

意思決定能力の向上について報告していたのは1校(御影小学校)のみで、清掃活動や各委員会の活動を通して責任を果たそうとする態度がみられるようになった、とあった(加藤, 2005)。

今後の課題について、報告されていたもの(27校分)をまとめたところ、Table 3のとおりとなった。中学校や高等学校もしくは幼稚園との連携(17校)や、地域・社会・保護者との連携(16校)の必要性を報告する学校が多くみられた。また、児童のスキルについての記述がいくつかみられた。具体的には、自己有用感をもつことができるような道德教育の必要性(渡辺, 2006)、普段の係活動等で自己効力感をもてるようにする必要性(中野, 2005)、自分が考え行動できる力の育成(小林, 2004)、自分の意見等を伝えられるスキルの育成(坂上, 2006)が挙げられていた。

Table 3 キャリア教育活動での課題

課題	課題として挙げている学校数(割合)
(幼・)小・中(・高)の連携	17 (63%)
地域・社会・保護者との連携	16 (59%)
キャリア教育の系統的な取り組み	11 (41%)
教員の研修	8 (30%)

注1) 上表の割合は、具体的な課題を報告した学校数(27)を分母とした

キャリア教育による児童の職業的（進路）発達にかかわる諸能力への効果についての報告が少なかつた原因の一つとしては、評価方法が未確立な学校が多いことも一因と考えられる。評価について、一部でポートフォリオ評価の試みの報告（森崎，2006；中野，2005）や自己評価表の活用（橋本，2006）等があったが、多くの学校では記述がなかつた。また、評価について報告のあつた庄原小学校や京都教育大学附属京都小学校から、キャリア教育における評価方法のさらなる工夫、評価方法の開発が今後の課題としてあがつていた（橋本，2006；森崎，2006）。ただし、それを考慮しても、職業的（進路）発達にかかわる諸能力の基盤となるであろう自己有用感や自己効力感の育成の必要性が今後の課題として挙げられているのは気がかりな点である。近年の職業選択に関する研究では、自己効力感（self-efficacy）が職業選択に影響するとされている。例えば Lent, Brown, & Hackett（1994）が提唱した社会認知的キャリア理論では、自己効力感が、職業上の興味や目標の選択、職業選択等の活動の重要な説明要因となっている。以上より、小学校でのキャリア教育の効果はまだ十分でないことが窺われる。

4. 特徴的な事例の紹介

レポート内容の集計によって、現在の小学校におけるキャリア教育のおおよその傾向が明らかになった。しかし同じカテゴリーに分類された活動でも、取り組みの詳細はそれぞれ異なっており、注目に値する活動もそうでないものも存在する。また度数が非常に少なかつた活動は Table 2 から省かれているが、その中にも注目すべきものがある。そこで以下では、特徴的であり効果的だと思われるキャリア教育に関する事例を個別に紹介する。これによってキャリア教育における各活動の改善についての示唆が得られると思われる。

4.1 キャリア教育を軸とした小中一貫教育に関する事例

京都教育大学附属京都小学校は、平成 15 年度から「9 年生義務教育学校」の設立に向けた小中学校 9 年一貫教育システム確立に取り組んでいる。当校の教諭が、キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修に、平成 16 年から平成 18 年まで 3 年連続で参加しており、そのレポート内容をまとめて紹介する。

山口（2004）によると、京都教育大学附属京都小学校では、“自らの将来展望を切り開いていく能力を身につけ、21 世紀をリードする生徒の育成を目指します”と銘打ち、①国際化、情報化、科学技術の進歩に対応していきける、②主体的に社会と関わり、豊かな感性、豊かな人間性を持つ、③発展的な学習に取り組み、高い知性と実践力を培う、④自己の個性を理解し、主体的に進路を選択できるような児童・生徒の育成を目標とし、キャリア教育を中核に据えた小中一貫カリキュラムの開発に取り組んでいる。教育課程としては 4・3・2 制に区切り、初等部（4 年）は学級担任制を基盤にしながら基礎・基本の徹底を、中等部（3 年）は教科担任制を入れ一人ひとりの学力の定着を、高等部（2 年）は興味関心・能力に応じて個性の伸長を図り、確かな学力をつけさせることを試みている。また、豊かな体験・行事・道徳・総合的な学習により、集団の一員として積極的に取り組める児童・生徒を育成することで、豊かな感性・人間性を育むことをねらっている。さらに、新教

科として、サイエンス、ランゲージ、アントレプレナー（entrepreneur）を導入し、サイエンスでは理科・算数（数学）・技術の基礎知識を活用し、より自然科学への関心を深める児童・生徒を育成することを、ランゲージでは言語の特性を理解し、実用的な言語活動を実践し、国際社会において個性豊かに生きる児童・生徒を育成することを、アントレプレナーでは起業家精神に学ぶ学習を通じて自己実現にむけ努力を惜しまず、社会に貢献できる児童・生徒を育成することを目指している。さらに、サイエンスとランゲージを通じて個性の伸長を、アントレプレナーを通じて的確な職業観の形成を図っている。

小原（2005）によると、このうち、新教科の具体的な取り組みについて次のとおりであった。まずアントレプレナーの具体的な内容としては、想像力を育む商品開発の学習、企画力を高める学習、社会貢献が図れる学習、体験を通じてプレゼンテーション能力を高める学習であり、例えば小学5年生では「夢のプレイランド」～会社を作ろう～、6年生では「NEW 文具を開発しよう」～バーチャルカンパニーに参加しよう～という単元で取り組まれていた。サイエンスの具体的な内容としては、専門教科担当により観察・実験・実習を充実させた学習、専門的な知識・技能を持つ学外講師を招いた学習であり、例えば小学5年生では「動きの科学」～マイロボを作ろう～、6年生では「見えない力の科学」～音をつかまえ、音と遊ぼう～という単元で取り組まれていた。ランゲージの具体的な内容としては、日本語・英語でのディスカッション能力・プレゼンテーション能力を高める学習、外国の人とのコミュニケーションを体験する学習、日本語の言語文化に親しむ学習であり、例えば小学5年生では「音の響きを楽しもう」～百人一首の魅力を探る～、6年生では「工夫をして伝えてみよう」～外国の人とのコミュニケーション～という単元で取り組まれていた。

橋本（2006）は、これらの活動を通しての成果と課題を以下のように報告していた。まず成果として、子どもたちのキャリア発達能力の向上を挙げていた。3つの新教科では、必修教科で培った力を基に、社会で活躍しているゲストティーチャーから学ぶことで、学ぶ意欲の高まりがみられたとともに、従来の教科学習だけでは気付かなかったことに気付いたり、社会の中で実践的に役立つであろう力をつけ始めたりしている様子もみられるようになったと報告していた。また、教科学習では特に算数・数学科を中心に習熟度別学習の実施も行っており、それによる効果も挙げていた。自分にあった課題（コース）選択の機会を1年生の段階から積み重ねることによって、それぞれの発達段階に応じて、自分の学習を自己評価し、次の課題（コース）選択に生かそうとする姿も見られるようになったと報告していた。今後の課題としては、道徳、特別活動、総合的な学習での小中の連携とキャリア教育を中核にすえた学習や活動を進めることを挙げていた。また、今後3年間の具体的な研究課題として、義務教育9年間の4・3・2制の学年部区切りに対応した「学習指導要領」の策定、キャリア教育を中核にすえた教育課程の開発とキャリア教育における評価の開発、学習集団編成や学級編成による学習効果や教育効果の検証、小中一体で経営できる内部諸組織の相互連関の体系化を挙げていた。

京都教育大学附属京都小学校の取り組みは、附属京都中学校との連携が密で、先進的な試みと言えよう。前述のとおり、今後の課題として多くの学校が小・中の連携を挙げており、そのような課題の手本となる取り組みと評価できる。

また、新教科の取り組みが報告されていたが、そのうちのアントレプレナーについては上西(2006)で詳細が紹介されているため、その内容を以下に示す。アントレプレナー教育の目標として、①積極的に夢や理想を語りあい、その実現に向けての自分のありかたを考えることのできる学習、②自己の発想や工夫を、積極的に社会への貢献や理想とする社会の実現に生かそうとする意欲を育てる学習、③児童・生徒が自己について発見し、更に自己開発の導きとなる学習、④社会と学校の橋渡しとなる学習、⑤発想や工夫する力を高め、自己の持つ理想を実現することの喜びを感じることできる学習、の5つが挙げられている。また、実際の授業場面においての、アントレプレナー授業の成立条件として、①プログラムのどこかで「起業家」の活動に触れているか、②指導者が児童・生徒につけたい力を明確な目標として持っているか、③個別活動と小集団活動の連携を図り、全体への働きかけの場面があるか、④児童・生徒が個々に目標を持ち活動できているか、⑤児童・生徒が自分の意思でその課題に取り組んでいるか、⑥児童・生徒が自分自身について振り返る場面を設定しているか、⑦児童・生徒が常に考えながら活動できているか、⑧児童・生徒が授業の中で「社会」(仕組み・ルール)を意識する活動を取り入れているか、の8点を挙げており、特に①～③が重要な成立条件である。更に、前述の小原(2005)で紹介されていた、6年生の課題であった「NEW文具を開発しよう」～バーチャルカンパニーに参加しよう～の具体的な内容は以下のとおりである。①「NEW文具」を開発するというテーマを知り、この学習の見通しをもつ。②かつての「NEW文具」(今商品化されている文具)を調べて、発想の手がかりとする。③テーマにそって「NEW文具」について考え、自分の考えをまとめる。④グループの中でそれぞれが考えた「NEW文具」を交流しあい、話し合っって新商品を開発する。⑤中間発表会に向けて、仕事を分担し、自分たちの「NEW文具」の良さをアピールできるように工夫する。⑥それぞれのグループのアイデアについて、また発表の仕方について意見交流し、良さを認め合う。⑦中間発表会でもらった意見について練り直し、より良い物に作り替える。⑧バーチャルカンパニー(アントレプレナーシップ開発センターが主催する教材を利用。実存の企業であるビジネス・パートナーの支援のもと、商品開発を行い、バーチャル・モールに仮想企業を立ち上げ、他の参加校との商取引を通じて企業運営を行う国際ビジネスのシミュレーションプログラム)に載せる。⑨バーチャルカンパニーでの結果を考察し、そうなった要因を考える。⑩活動を振り返り、自分や友達の力について考える。

このアントレプレナー授業の試みは、いくつかの学校で取り組まれている“児童による出店”活動(具体的な例は、後述の西浦小学校での取り組みの一つである「西浦商店街」を参照)と類似点もあるが、より独自の発想が求められ、参考になる点が多い。

4.2 職業学習に関する事例

西浦小学校では、5年生から継続した職業学習を展開していた。当校では、職業人から話をきく機会、職場体験といった比較的多くの学校で実施されている活動はもちろんのこと、職業の模擬体験(子どもによる出店等)や自分の職業観の確認といった、少数の学校からしか報告があがらなかった活動も行っており、さらにレポートの内容も具体的で、大変参考になると思われた。以下に当校で実施した職業学習「私の仕事観」の具体的な内容(中野, 2005)を紹介する。

○5年生3学期

- ①「夢のりれき書」(2時間)：自分の将来について考えてみる。
- ②「権利の熱気球」(1時間)：意見交流の中で、それぞれの価値観が違うことを知り、それを認め合う大切さを知る。
- ③「この一杯のごはんのために」(1時間)、「暮らしを支える人たち」(2時間)：自分たちの生活が、多くの職業に支えられていることに気づく。
- ④「やってみたい職業・やりたい職業」(2時間)：あこがれの職業や、自分の能力や個性にあった職業を考える。
- ⑤校外学習「私のしごと館」見学
- ⑥「私の仕事観は、どうか変わったか」(1時間)：学習の振り返りを行う。

○6年生1学期

- ⑦「ぼくたちの会社」(16時間)：校内の奉仕活動を、“会社”の仕事として行う。
 - ・ 10種類の活動(「ミニビオトープをつくる」など)をそれぞれ会社と呼び、仕事であることを認識させる。
 - ・ 希望の会社への願書を書かせ、「願書出願」「面接指導」「面接」…とすすめていく。
 - ・ 面接では自分の得意なことややる気をアピールさせる。会社によっては実技も入れる。
 - ・ 自分たちで社名、社則、社長を決めさせ、日程や目標などの方針も考えさせる。

○6年生2学期

- ⑧「仕事聞き取り」(宿題)：自分の家族の仕事について知る。
- ⑨「夢への道のりお話会」(2時間)：「人生の先輩」(大学生、職業人)による講演をきく。
- ⑩「職業体験学習」(27時間)
 - ・ 体験先を決める(8時間)：自ら体験先を探してくるか、事前に了解を得ている事業所へ行くかを決める。前者の場合、自分で電話をしてアポイントをとり、学校からの文書を持ち依頼のために訪問する。後者の場合は面接へ行く。いずれにしても外へ出での活動があるため、事前に国語の敬語の単元や電話のかけ方を学習する。
 - ・ 挨拶に伺う(3時間)：体験前に、開始時刻や注意事項、準備物、服装など当日のことについて聞くため訪問する。
 - ・ 職業体験学習に取り組む(6時間)
 - ・ お礼の作品作りを行う(4時間)：体験中の姿を撮った写真を使い、カレンダーを作成する。体験記を編集、作成する。
 - ・ お礼の訪問をする(3時間)：カレンダーと体験記をもってお礼の訪問をする。
 - ・ 感想を交流しあう(3時間)：感じたこと、わかったことを話し合う。

○6年生3学期

- ⑪「西浦商店街」(19時間)：自分たちの商店を開く。
 - ・ 計画する(2時間)：どんな商店をつくるかアイデアを持ち寄り、13店舗選ぶ。各店の提案者が、全員の前で自分の構想を説明し、メンバーの希望を募る。

- ・ 材料，商品を集める。製品を作る（12 時間）：商品をそろえる（「野菜市場」は，家が農業をやっている児童が集まり，前日に収穫，当日の朝に届けてもらう；「キャンドルショップ」は，ろうを溶かして色づけし，さまざまな形のキャンドルを作成する 等）
- ・ 売る（4 時間）：会場を設営し，商品を陳列した。正門前には受付を設置した。
- ・ 感想を記録し，まとめる（1 時間）

⑫「私の仕事観をふりかえる」（2 時間）：長期にわたっての取り組みの記録を見返し，自分の考えを成長させることができたかを振り返る。

上述のように，西浦小学校の取り組みでは，児童にとっては，職業に関する知識を提供される時間（「夢への道のりお話会」など）も，自ら職業関連活動に取り組む時間（「ぼくたちの会社」や「職業体験学習」や「西浦商店街」など）も，さらに自分を見つめる時間（「夢のりれき書」や「私の仕事観をふりかえる」など）も用意されており，充実した職業学習カリキュラムと言えよう。特に自ら職業関連活動に取り組む時間が多く，6 年生では計 3 回，異なる課題で職業に関連する活動に積極的に取り組む機会が提供されている。いずれも自ら計画を立てたり自分をアピールしたりといった，自立を促す活動が含まれており，全体的に児童が主体的に取り組むような職業学習が展開されていたと言えよう。また，自分を見つめる時間を職業学習の最初と最後においているのは，児童の変化が確認できるという点で，指導者にとっても児童本人にとっても意義がある。

このような積極的な取り組みを行っている西浦小学校であるが，中野（2005）は低学年からのキャリア教育活動（特別活動，学級での係活動等）に対して，指導者側に「キャリア教育の一環」であるという認識が不足していると述べている。そして，低学年からのこのような諸活動等でも，自己効力感を育てるような取り組みにしていく心構えが必要であると述べている。

4.3 小学校全学年でのキャリア教育活動に関する事例

御影小学校のレポート（加藤，2005）には，小学 1 年生から 6 年生までのキャリア教育活動が紹介されていた。前述のとおり，中野（2005）が低学年からの取り組みの重要性を述べており，全学年の活動を通してキャリア教育活動を把握することも重要と考えられる。全学年の活動を報告しているレポートは少なかったが（6 校），そのうち当校が最も具体的な内容を記しており，貴重な情報であると思われるため，以下に詳細を紹介する（ただし，詳細の不明な箇所は省いた）。

○1 年生

- ①「むかしあそびの会」：地域の高齢者の方々をゲストティーチャーとして，「こま回し」「けんだま」「めんこ」「おてだま」などの伝承遊びを教えていただく。

○2 年生

- ②「とびだせひみつたんけんたい」：校区に出かけていき，調べてみたいところ（市場，駅など）をグループで調べる学習に取り組む。

○3 年生

- ③「町たんけん」：校区にある公共施設や公園等をグループ単位で訪ね、係の方や地域の方の協力を得て、いろいろな調べ学習に取り組む。
- ④「みかげの森たんけんたい」の取り組みから：木の実の食べ方を調べ、いくつかの方法で加工する（例えば、梅干、ミカンゼリー、干し柿等）。
- ⑤一人暮らしのお年寄りの方々へ「手作りカレンダー」を届ける。

○4年生

- ⑥東灘消防署見学
- ⑦「人にやさしい町大作戦」の取り組みから：
 - ・ アイマスク体験活動
 - ・ 車椅子体験活動：歩道橋を渡るグループ、スーパーで買い物をするグループ等8つのグループに分かれ、車椅子体験に取り組む。
 - ・ 障害のある方のお話を聞く会

○5年生

- ⑧「御影米をつくろう」の取り組みから：
 - ・ 運動場端にあるミニ水田でもち米を、ブランターと四角池でうるち米を育てる。その過程で、田植え、稲刈り、脱穀等の体験をする。
 - ・ 「お米についてもっとくわしくなろう」ということで、米作りの年間の作業や世話、米の歴史、米の種類等について、インターネットや図書館の本、聞き取り等により調べる。調べた結果は、グループごとに発表する。
- ⑨「かがやき未来塾」の一環として：兵庫県立美術館館長による講演をきく。

○6年生

- ⑩「御影の町についてさぐる」：御影地域のことで自分が調べたいこと（例えば、酒造り、御影石等）について、インターネットやインタビュー、現地に出かける等により調べる。調べた結果は小冊子にまとめる。
- ⑪「チャレンジ御影石アート」
 - ・ 「御影石材」の方をゲストティーチャーとして招き、お話をきく。
 - ・ 御影石アートへの取り組み：選んだ7個のデザインを7個の本御影石に描き、グループで共同制作に取り組む。
 - ・ 「御影石材」見学
- ⑫「かがやき未来塾」の一環として：兵庫県立美術館館長による講演をきく。

御影小学校の取り組みは、比較的地域の特徴を活かしており（「チャレンジ御影石アート」など）、地域の特徴を調べる活動も多く（2, 3, 6年生）、地域密着型と言えよう。1年生から高齢者等の校外の方との交流を始め、2, 3年生では校外の人と触れ合う中での調査が始まり、4年生以降で直接“職業”にかかわる活動が始まっていた。具体的には4年生では職場見学（消防署）、5年生では米作り体験、6年生では御影石アート作成と職場見学（御影石材）であった。国立教育政策研究所生

徒指導研究センター（2002）の“職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）”（Table 1）でも、小学校中学年以降に、具体的な“職業”にかかわる項目が増えており、これに沿ったプログラムとなっていると言えよう。なお、上述の内容以外に、全学年での活動として、異学年とのふれあい活動や栽培活動（1年生はアサガオ・チューリップ、2年生はミニトマト・スイセン・・・）、全校一斉清掃等も報告していた（加藤，2005）。

このような取り組みを通しての、児童の職業的（進路）発達にかかわる諸能力への効果として、加藤（2005）は、人間関係形成能力（「飼育・栽培活動を通して生命を尊ぶ心や友達や周りの人々への優しさ、共に生きる心などが養われた」、「異年齢集団の活動を通じて、相手の立場に立って物事を考える態度や相手を思いやる態度が育ってきた」、「調べたことを他の人たちに分かりやすく伝えようとし、表現活動に工夫がみられた」と、情報活用能力（「飼育・栽培活動を通して勤労の喜びや大切さを体感した」と、意思決定能力（「清掃活動や各委員会の活動等ではまじめに取り組み、責任を果たそうとする態度がみられる」）の向上を報告していた。加えて、「専門家等の生の声をきくことで、子どもたちの生きる力を育むためのよい刺激を受けた」とも述べていた。しかし、加藤（2005）が挙げている効果には、将来設計能力に関わるものがみられなかった。効果の報告についてまとめた折に述べたように、将来設計能力向上には、職業に直接関連する情報を入手したり、実際に職業体験をするような活動が有効と推測される。前述の西浦小学校での取組活動と比べると、御影小学校では、自ら職業関連活動に取り組む時間が少なく、このような活動が含まればよりよいキャリア教育活動となるであろう。

5. まとめ

本報告では、平成16年度から平成18年度のキャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修で提出されたレポートの内容を整理した上で、それらに記載されていた特徴的なキャリア教育の試みを紹介した。小学校では“キャリア教育”と銘打っての取り組みがまだ十分浸透しておらず、試行錯誤している学校も少なくない（村上，2006 など）。小学校でのキャリア教育による児童の職業的（進路）発達にかかわる諸能力に及ぼす効果をまとめたところ、その効果はまだ十分でないことが示唆された。また、今後の課題として中学校や高等学校もしくは幼稚園との連携や、地域・社会・保護者との連携の必要性を報告する学校が多くみられ、小学校単独では効果的なキャリア教育の実施が難しい現状が窺われた。

しかし先進的な取り組みを行っている学校もいくつかみられた。このような事例はキャリア教育の改善を促進し、今後のよりよいキャリア教育に結びつくであろう。本報告で挙げた具体例が改善の一助になれば幸いである。

引用文献

橋本祥夫（2006）. キャリア教育の実践と課題「9年制義務教育学校」設立に向けた小中学校9年一貫教育システムの確立に関する研究開発～キャリア教育を中核にすえた小中一貫カリキュラム～平成18年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔基礎コース・

- 西部ブロック] 事前提出資料 (京都教育大学附属京都小学校, 未公開)
- 平山忠直 (2006). キャリア教育の実践と課題「児童の役割観を育むキャリア教育」平成18年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 [基礎コース・西部ブロック] 事前提出資料 (佐賀大学文化教育学部附属小学校, 未公開)
- 加藤千晴 (2005). 我が校のキャリア教育・進路指導 平成17年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (進路指導講座) [基礎コース] 受講者作成資料 (兵庫県神戸市立御影小学校, 未公開)
- 小林典子 (2004). わが校の進路指導—小・中・高等学校が連携した実践及び計画的・組織的な進路指導の実践と課題—平成16年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (進路指導) 講座資料 (滋賀県彦根市立城陽小学校, 未公開)
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター (2002). 児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について 調査研究報告書
- 厚生労働省 (2006). 平成18年版 労働経済の分析
<http://www.hakusyo.mhlw.go.jp/wpdocs/hpaa200601/body.html>
- 厚生労働省 (2007). 平成19年版 労働経済の分析 —ワークライフバランスと雇用システム—
<http://www.hakusyo.mhlw.go.jp/wpdocs/hpaa200701/body.html>
- Lent, R. W., Brown, S. D., & Hackett, G. (1994). Toward a unifying social cognitive theory of career and academic interest, choice, and performance. *Journal of Vocational Behavior*, **45**, 79-122.
- 文部科学省 (2004). キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観, 職業観を育てるために～
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801/002.htm
- 森崎 光 (2006). 「自校におけるキャリア教育に係る取組み (研究推進の実際と課題)」平成18年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 [基礎コース・西部ブロック] 事前提出資料 (広島県庄原市立庄原小学校, 未公開)
- 村上憲仁 (2006). キャリア教育の実践と課題「キャリア教育を推進するために」平成18年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 [基礎コース・西部ブロック] 事前提出資料 (愛媛県今治市立波止浜小学校, 未公開)
- 中野祐介 (2005). 我が校のキャリア教育・進路指導 平成17年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (進路指導講座) [基礎コース] 受講者作成資料 (大阪府羽曳野市立西浦小学校, 未公開)
- 小原 武 (2005). 我が校のキャリア教育・進路指導 平成17年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (進路指導講座) [基礎コース] 受講者作成資料 (京都教育大学附属京都小学校, 未公開)
- 坂上裕隆 (2006). キャリア教育の実践と課題「道徳教育を通じたキャリア教育」平成18年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 [基礎コース・西部ブロック] 事前提出資料 (鹿児島県指宿市立大成小学校, 未公開)

- 菅 知子 (2005). 我が校のキャリア教育・進路指導 平成 17 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修(進路指導講座)[基礎コース]受講者作成資料(愛媛県新居浜市立船木小学校, 未公刊)
- 田川良久 (2006). キャリア教育の実践と課題「伯耆町立二部小学校における職場体験学習の取り組み」平成 18 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修[基礎コース・西部ブロック]事前提出資料(鳥取県伯耆町立二部小学校, 未公刊)
- 上西好悦 (2006). 小・中学校キャリア教育を支えるアントレプレナー教育 日本標準
- 渡辺章子 (2006). 大田市立仁摩小学校の実践 平成 18 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修[基礎コース・西部ブロック]事前提出資料(島根県大田市立仁摩小学校, 未公刊)
- 渡辺三枝子 (2008). キャリア教育ー自立していく子どもたち 東京書房
- 山口孝治 (2004). わが校の進路指導ーキャリア教育を柱とした小中一貫学校の設立を目指してー平成 16 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修(進路指導)講座資料(京都教育大学附属京都小学校, 未公刊)

分析対象としたレポート

- 千々松明子 (2004). わが校の進路指導ーいろいろな人との出会いや体験を通して自分を見つめ直すー平成 16 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修(進路指導)講座資料(山口県宇部市立藤山小学校, 未公刊)
- 富士本次洋 (2005). 我が校のキャリア教育・進路指導 平成 17 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修(進路指導講座)[基礎コース]受講者作成資料(宮崎県都城市立明和小学校, 未公刊)
- 福原 剛 (2006). キャリア教育と社会科 平成 18 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修[基礎コース・西部ブロック]事前提出資料(広島県広島市立千田小学校, 未公刊)
- 橋本祥夫 (2006). キャリア教育の実践と課題「9 年制義務教育学校」設立に向けた小中学校 9 年一貫教育システムの確立に関する研究開発ーキャリア教育を中核にすえた小中一貫カリキュラムー平成 18 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修[基礎コース・西部ブロック]事前提出資料(京都教育大学附属京都小学校, 未公刊)
- 平井 守 (2004). わが校の進路指導 キャッチ マイ ドリームー自分らしさを発揮して, 未来をひらくキャリア教育ー平成 16 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修(進路指導)講座資料(岡山県備前市立片上小学校, 未公刊)
- 平山忠直 (2006). キャリア教育の実践と課題「児童の役割観を育むキャリア教育」平成 18 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修[基礎コース・西部ブロック]事前提出資料(佐賀大学文化教育学部附属小学校, 未公刊)
- 廣井伸二 (2004). わが校の進路指導ー進路指導の実践と小・中・高等学校が連携した実践と課題

- ー 平成 16 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（進路指導）講座資料（宮崎県都城市立西小学校，未公開）
- 加藤千晴（2005）. 我が校のキャリア教育・進路指導 平成 17 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（進路指導講座）〔基礎コース〕受講者作成資料（兵庫県神戸市立御影小学校，未公開）
- 川上雄二（2005）. 我が校のキャリア教育・進路指導 平成 17 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（進路指導講座）〔基礎コース〕受講者作成資料（岡山県井原市立荏原小学校，未公開）
- 木本弘美（2005）. 我が校のキャリア教育・進路指導 平成 17 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（進路指導講座）〔基礎コース〕受講者作成資料（滋賀県志賀町立小野小学校，未公開）
- 小林典子（2004）. わが校の進路指導ー小・中・高等学校が連携した実践及び計画的・組織的な進路指導の実践と課題ー 平成 16 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（進路指導）講座資料（滋賀県彦根市立城陽小学校，未公開）
- 糀 治公（2005）. 我が校のキャリア教育・進路指導 平成 17 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（進路指導講座）〔基礎コース〕受講者作成資料（鳥取県大山町立中山小学校，未公開）
- 森 浩一（2006）. キャリア教育の実践と課題「キャリア教育に関連すると思われる本校における取組と課題」 平成 18 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔基礎コース・西部ブロック〕事前提出資料（長崎県対馬市立南小学校，未公開）
- 森崎 光（2006）. 「自校におけるキャリア教育に係る取組み（研究推進の実際と課題）」 平成 18 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔基礎コース・西部ブロック〕事前提出資料（広島県庄原市立庄原小学校，未公開）
- 村上憲仁（2006）. キャリア教育の実践と課題「キャリア教育を推進するために」 平成 18 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔基礎コース・西部ブロック〕事前提出資料（愛媛県今治市立波止浜小学校，未公開）
- 中野祐介（2005）. 我が校のキャリア教育・進路指導 平成 17 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（進路指導講座）〔基礎コース〕受講者作成資料（大阪府羽曳野市立西浦小学校，未公開）
- 野地正和（2006）. キャリア教育の実践と課題「達人に生き方を学ぼう」第 6 学年・総合的な学習の時間 平成 18 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔基礎コース・西部ブロック〕事前提出資料（広島県広島市立原小学校，未公開）
- 中島美弘（2006）. キャリア教育の実践と課題「自校におけるキャリア教育の取組」 平成 18 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔基礎コース・西部ブロック〕事前提出資料（滋賀県栗東市立治田東小学校，未公開）
- 小原 武（2005）. 我が校のキャリア教育・進路指導 平成 17 年度キャリア教育を推進するための

- 指導者の養成を目的とした研修（進路指導講座）〔基礎コース〕受講者作成資料（京都教育大学附属京都小学校，未公刊）
- 坂上裕隆（2006）. キャリア教育の実践と課題「道徳教育を通じたキャリア教育」平成18年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔基礎コース・西部ブロック〕事前提出資料（鹿児島県指宿市立大成小学校，未公刊）
- 塩見俊樹（2005）. 我が校のキャリア教育・進路指導 平成17年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（進路指導講座）〔基礎コース〕受講者作成資料（京都府福知山市立下六人部小学校，未公刊）
- 但住文章（2004）. わが校の進路指導～よりよい関わりを求め、豊かに生きる力をもった子どもの育成～平成16年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（進路指導）講座資料（鳥取県岩美郡福部村立福部小学校，未公刊）
- 菅 知子（2005）. 我が校のキャリア教育・進路指導 平成17年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（進路指導講座）〔基礎コース〕受講者作成資料（愛媛県新居浜市立船木小学校，未公刊）
- 田川良久（2006）. キャリア教育の実践と課題「伯耆町立二部小学校における職場体験学習の取り組み」平成18年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔基礎コース・西部ブロック〕事前提出資料（鳥取県伯耆町立二部小学校，未公刊）
- 田島英樹（2004）. 「泉台小学校のキャリア教育」平成16年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（進路指導）講座資料（福岡県北九州市立泉台小学校，未公刊）
- 高橋 恵（2005）. 我が校のキャリア教育・進路指導 平成17年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（進路指導講座）〔基礎コース〕受講者作成資料（香川県坂出市立西部小学校，未公刊）
- 立本恵理（2006）. キャリア教育の実践と課題「キャリア教育を通して地域に学ぶ」平成18年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔基礎コース・西部ブロック〕事前提出資料（徳島県鳴門市立鳴門東小学校，未公刊）
- 富永幸二（2006）. キャリア教育の実践と課題「自校におけるキャリア教育の取組」平成18年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔基礎コース・西部ブロック〕事前提出資料（宮崎県えびの市立上江小学校，未公刊）
- 津田武子（2005）. 我が校のキャリア教育・進路指導 平成17年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（進路指導講座）〔基礎コース〕受講者作成資料（広島県北広島町立八重小学校，未公刊）
- 渡辺章子（2006）. 大田市立仁摩小学校の実践 平成18年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔基礎コース・西部ブロック〕事前提出資料（島根県大田市立仁摩小学校，未公刊）
- 渡辺豊樹（2004）. 我が校の進路指導ーしろやまタイムー 平成16年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修（進路指導）講座資料（大分県佐伯市立佐伯小学校，未公刊）

山口孝治 (2004). わが校の進路指導ーキャリア教育を柱とした小中一貫学校の設立を目指してー
平成 16 年度キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (進路指導) 講座資
料 (京都教育大学附属京都小学校, 未公刊)